ひとしの森新聞　2023年12月1日

誕生から一年 生成AIの実力は？

渡辺仁史

News Paper
第13号？
2023.12.01

●それは観察から始まった……人間行動と建築情報学

think the future from hitoshi watanabe lab.

●「言葉」が「画像」イメージになる

● システムとしては、すでにいくつか開発されていましたが、一躍脚光を浴びて広まったのは、おそらく昨年2022年の年末に、OpenAIがChatGPTを発表したときからだと思われます。

● 現在では、単独のアプリケーションもいくつか出ていますが、すでにAdobe Photoshopなどの画像編集アプリにも組み込まれ、日常的な画像作成支援ツールになっています。

● 建築系に特化したDreamStudioなどは、あっという間に建築企画業務のプレゼンテーションには、なくてはならないツールになると思われます。すでに私のFacebookの投稿では、その例をいくつか紹介していますが、発想を転換したり、拡張したり編集したりする強力なツールとなることは間違いありません。

● 人間が作り出した全てのツールに共通なことですが、その使い方の基本とルールを体得しないと、単なるお絵描きツールになることは周知の通りです。

● これらの画像生成AIは、テキストだけをプロンプトとして入力し、それをもとにAIによってイメージを自動生成するものですが、中には、自分が意図するイメージをテキストにプラスして生成させるタイプのものも出てきており、ラフスケッチを入力して、そこからアールとの住宅のようなデザインを生成して指示すると、それを反映した生成イメージが出力され、添えたヒントに基づいてエスキースを進めることもできます。

● 肝心なのは、いかにオリジナルでユニークなテキスト（文章あるいはキーワード）をプロンプトとして入力するかによって、当然、出力される結果の質が異なってきます。つまり、生成AIと共創して新しいイメージを作り出すためには、そのアプリを使いこなす経験と感覚がかなり重要になってきます。まずは、何度も試してみることがシステムを使いこなす第一歩のような気がします（あらゆることに言えることですが、、）。

● 来年の干支「辰」の年賀状を想定して、Adobe Fireflyに、「折り紙で作った龍が、夜の東京上空を、口から炎を吐きながら東京タワーの周りを駆け抜ける映像を」と入力して得られた画像の一つが、今月の写真となりました。

Adobe Firefly で生成した折り紙で作った龍と東京の夜景

● 早稲田大学創造理工学部建築学科渡辺仁史研究室同窓会「ひとしの森」 / 東京都新宿区大久保2-17-34